

サポート

No. 154

平成30年8月24日発行

秋田県教育庁特別支援教育課 指導班

秋田県特別支援学校職業教育フェスティバル

今年で8回目となる平成30年度秋田県特別支援学校職業教育フェスティバルを、7月11日（水）に秋田市にぎわい交流館AUで開催しました。作業学習製品の展示や販売、視覚支援学校生徒及び教職員による「ふれあいマッサージ」等を通して、特別支援学校の職業教育の取組を紹介しました。

「作業学習実践交流会」は、ポスター発表の形式を取り入れて実施しました。11か所設けられた各ブースでは、各校の生徒同士が作業体験や質疑応答を行いながら自校の実践について情報交換を行いました。交流会で感じたことや学んだことを自校の作業学習に生かし、今後も作業学習による交流を通して切磋琢磨することを期待しています。

同時開催の秋田県障害者技能競技大会には60名（うち特別支援学校生徒56名）の選手が参加しました。今年もハローワーク秋田の御協力により、多くの企業関係者にも来場いただき、生徒の職業能力を御覧いただくことができました。

秋田県障害者技能競技大会の部門別受賞者（特別支援学校在籍者）は次のとおりです。なお、金賞受賞者の中から特に優秀な成績であったビルクリーニング部門、斉藤明香さんには県知事賞が贈られました。



木工競技部門



作業学習実践交流会



販売

【技能競技大会結果】

県知事賞

| 部門 | 参加者数 | 1位 | 2位 | 3位 |
|-----------|------|-----------------|--------------|-------------|
| ワード・プロセッサ | 3 | 佐藤聖良（栗田） | 小笠原叶夢（たかのす校） | 伊藤陸（きらり） |
| 表計算 | 4 | 社会人 | 社会人 | 松橋一弥（たかのす校） |
| 喫茶サービス | 18 | 金谷琳（かづの校） | 平田裕樹（能代） | 伊藤すず（大曲） |
| 木工 | 5 | 小笠原尽（ゆり） | 伊藤健流（みどり） | 越前屋勇氣（栗田） |
| ビルクリーニング | 18 | 斉藤明香（大曲） | 田中洗成（栗田） | 奈良美優（比内） |
| 縫製 | 5 | 嶋森智子（比内） | 徳政景太（附属） | 佐藤光流（かづの校） |
| パソコンデータ入力 | 7 | 相原翔太（栗田） | 西宮悠斗（せんぼく校） | 高橋真一朗（附属） |
| 合計 | 60 | | | |

ボッチャ交流①

秋田県立比内支援学校たかのす校 教諭 舘山 奈穂子

今年初めて「心のバリアフリー推進事業」として、鷹巣中学校2年生とボッチャを通してのスポーツ交流会を行いました。その事前学習として「ボッチャ体験学習会」を実施し、特体連のボッチャ指導員の方からボッチャのやり方やルールを教えてもらいました。子どもたちは、ボッチャのルールや楽しさを感じ取り、授業でも取り組んで当日に臨みました。

また、鷹巣中学校の生徒たちには「障がい理解やたかのす校について」という内容で出前授業を行いました。たかのす校のことをよく知らない生徒も多く、真剣に講話を聞く姿が印象的で、相手の気持ちを理解することの大切さや声をかけてみる勇気をもつことなどを受け止めてくれたようでした。また、鷹巣中学校でも「ボッチャ体験教室」を行い、ルールやボールの投げ方などを実際にゲームをやりながら学びました。

交流当日は、最初はお互いにとっても緊張していたのですが、ゲームを重ねるごとに、相談しながら投球したり、うまくいったときにハイタッチして喜んだり、お互いの心が徐々に打ち解けていくのが見て取れました。各コートでは、鷹巣中学校の生徒が進行係や審判係を決めてゲーム進行を頑張り、鷹巣中学校の先生方からも、いい表情で取り組む生徒の姿や、普段大人しい生徒が自分から関わろうとする姿を見て、とても良い機会となったとお話いただきました。

交流に向けて、それぞれの担当者間で細かい打ち合わせを行いました。たかのす校の児童生徒への対応についても理解してもらい、丁寧に対応していただくことができました。「ボッチャ」が、児童生徒や教師間の心のバリアを解消する大変よいきっかけになったことを実感しました。



ボッチャ交流②

秋田県立秋田きらり支援学校 教諭 齋藤 仁

秋田南高等学校9名と秋田きらり支援学校高等部15名が、ボッチャを通じた交流及び共同学習を行いました。実施に当たり、どうしたらボッチャで双方の心の距離を縮めることができるのか悩みました。解決策として次の二つを考えました。一つ目は、出会いの場面から少人数（1グループ6名×4グループ）での活動とすること、また、練習場所はあえて肩が触れるような狭い教室にしました。二つ目は、互いに声を掛け合ったり、見やすかったりするように、スローイングボックスを3つつなげて使うなどの大幅なルール変更をしました。こうした条件の中で、両校の生徒達はグループ独自の掛け声、円陣、ハイタッチ、相談などを編み出しました。

以下は、交流後の本校生徒の感想です。「ニックネームで呼び合ったり、ランプ（スロープ）を支え合ったりして親近感が湧いた。」「円陣や掛け声でチームの士気が高まった。」「移動時に話したり、競技中に相談したりしたことはお互いを知ることにつながった。」

続いて、南高生徒から本校生徒へのメッセージです。「ボッチャを通して、互いに声を掛け合い、仲良くなった。団結力も高まった。」「きらりのみなさんの笑顔がステキで、私もがんばらなくちゃ、こうなりたいと思った。」「9月にまた会えるのが心から楽しみです。」

次回（9月）に向けた話合いから一部を紹介します。「練習の際に、あえて難しい局面のボール配置にして、作戦タイムを開けるようにする。」「一緒に応援グッズを作ったり、応援方法を考えたりする。」「練習で1位になった人は、好きなことを語れる。」などです。

目標球に自分達のボールをいかに近づけるかを競うスポーツを通して、両校の生徒の距離が縮まってきていることを実感しています。



平成30年度 初任者研修より

8月1日（水）～2日（木）秋田県立岩城少年自然の家にて、初任者研修 Project Adventure（プロジェクト・アドベンチャー）研修が行われました。今年度も高校教育課の初任者と混合のグループを編成し、校種を超えた交流を深めることができました。



限られたスペースから落ちないように支え合うアクティビティ



全員の息を合わせ一斉に立ち上がるアクティビティ

